

## 2016 対馬学フォーラム 企画集会

企画集会は、特定のテーマについて、関心のある方にお集まりいただき、その現状や課題、研究の成果や今後の予定等を発表し、参加者みんなで共有し、対話する場です。集会への参加者との新たなつながりや意見交換により、研究や実践活動のさらなる深化・発展を期待しています。

---

### 集会①「対馬のサステナビリティ学

#### ー森林資源・ミツバチ・食と農の3つのアプローチから」

総合地球環境学研究所 浅野 悟史  
東京外国語大学 大石 高典

対馬の暮らしをひもとくことは日本の暮らしを考えることになる。そんな思いから私たちはミツバチ、たべもの、森の3つの視点で研究を始めています。この集会では皆さんとの対話を通じて対馬の暮らしの中に持続可能な未来の暮らしのヒントを探っていきたいと思います。

- 集会内容：研究発表＋対話
  - 発表予定者：浅野悟史、大石高典
  - 会場：対馬市交流センター3階 第3会議室
- 

### 集会②「対馬に生育する植物の希少性とシカ対策」

京都大学大学院理学研究科 東 浩司

対馬には対馬固有種や国内では対馬にのみ生育する希少な植物種が生育していますが、近年のシカ食害により特に林床生の草本植物は壊滅的な被害をこうむっています。企画者はこれまで対馬の希少な植物の現状を調査し、それを踏まえて、シカ対策をはじめました。本企画集会ではその報告を行い、広く対馬市民に対馬の宝である希少な植物に関心を持ってもらいたいと思います。

- 集会内容：研究発表＋対話
  - 発表予定者：東浩司（京都大学大学院）、中西弘樹（長崎大学名誉教授）、
-

---

谷川ももこ（一般社団法人 daidai 代表理事/里山獣医）

○会場：対馬市交流センター4階 ギャラリー

---

### 集会③「対馬の野生動物と共生した地域づくり戦略」

日本大学生物資源科学部 系長 浩司

志多留、田ノ浜地区、瀬の浜等で、島民と研究者、島外の人たちとの協働で取り組んできた、ツシマヤマネコと共生した地域づくり、保護活動、オーナー田、木庭作復活プロジェクトの協働活動を報告し、一方で野生動物被害に苦しむ島民の暮らしづくりとの共存をどうはかるべきかを考える。比較対象として、神奈川県丹沢大山地域での民・官・学の域学連携事例も報告する。

○集会内容：研究発表＋対話

○発表予定者：系長浩司（日本大学）、關正貴（日本大学）、神宮正芳（田ノ浜ツシマヤマネコ共生農業実行委員会）、佐藤大樹（環境省対馬自然保護官事務所）、梅野加寿人（対馬市有害鳥獣対策室）

○会場：対馬市交流センター3階 第5・6会議室

---

### 集会④「対馬の特徴的な食品について」

東京農業大学応用生物科学部 内野 昌孝

対馬特有の食品である、ろくべえ、かばしこ米、ハチミツ、対州そばなどについて情報交換を行います。

○集会内容：ろくべえ、かばしこ米、対州ソバ、ハチミツの試食と勉強・対話  
15:30～16:20 試食と勉強

16:20～17:00 対話 松嶋賢一（東京農業大学農学部）・岡大貴（同応用生物科学部）・赤羽聡（同エクステンションセンター）

○会場：対馬市交流センター3階 調理実習室・生活実習室

---

---

## 集会⑤「対馬で海の持続可能な利用と地域の関係を考える」

九州大学大学院工学研究院 清野 聡子

対馬の海は、暖流、季節風、海峡、海溝、磯、汽水域と特別に自然条件に恵まれています。

ところが現在、気候変動や人間活動の影響で、生態系が変化し、水産資源も危機的な状態にあります。

対馬には、世界が悩んでいる「海の持続可能な利用」に関する課題と可能性が集約されています。

対馬の地域社会に蓄積されてきた知恵や経験、科学研究や島外との交流との出会い、海洋保護区、トレーサビリティなどの取り組みがきっと問題解決に役立つと思います。

集会では、海についての短期から長期までの方策を皆様とご一緒に考えたいと思います。

○集会内容：研究発表＋対話

○発表討議予定者：清野聡子・會津光博・石原大樹・柘野弘明（九州大学）、  
長野晋平（TSVR）、対馬の研究協力者の方々他

○会場：対馬市交流センター4階 視聴覚室

---